

「新しい文化会館の基本構想」 (飯田らしい施設機能)

テーマ：基本理念・活動を実現する機能・空間とは

検討項目：①鑑賞 ～何を観たい～ ②創造 ～どんなことがしたい～
③交流 ～どんな交流、どんな人が集まる、どんな部屋（空間）～

◆1 鑑賞

- ・メインとサブの複数のホールが必要。(ホールの専用性と汎用性のバランスは重要)
- ・それぞれ他ジャンルにも対応できる多様性を備えたものが良いのでは。(メインはクラシック系音楽が主体か、サブは人形劇も可能に)
- ・何をどう観たい、聴きたいかの二つ重視で考える視点が必要。飯田らしさは、創造的な機能・活動から生み出していく視点が重要
- ・聴く人にとって快適なゆとりのある空間、施設に。

◆3 交流

- ・幕間に感想を言い合ったり演奏者と聴き手が演奏の後に交流できるような場所があるととても豊かな時間が生まれるのでは。
- ・表現活動ができる広いスペースを中心に配置して周りでもつろぎながら見られる。その周りに「ホール」「スタジオ」「情報交換ができる場所」「カフェ」や「ストリートピアノ」があってもいい。
- ・エントランスやロビー中庭など「広場」のようなオープンなスペースができるといい。

◆2 創造

- ・メインホールの舞台と同じ広さのリハーサル室が必要
- ・舞台を見るだけでなく「体験する」こともキーワードとして大きい要素。
- ・飯田らしさを求めたとき「ファブラボ」=ものづくりの工場のようなものがあったらどうか。
- ・ホールの敷地内に「日常生活と重なる部分」が欲しい。
- ・敷居の高い芸術劇場ではなく「でっかい公民館」という感覚の場所が飯田の人にとっては大事。

【今回、共有された意見】

- ◎日常と結びついた機能性や空間性
… 半屋外（公園・広場）、屋外的な空間
- ◎創作活動が起こるような空間性
… 工房、ものづくり工場

大きな公民館 (日常的な大きな交流が生まれる)
「非日常的なホール」と「使い勝手のいいホール」のバランス

「新しい文化会館の基本構想」 (飯田らしい施設機能)

必要とされる施設機能

◆1 鑑賞機能

・メインホール：

1,000～1,300席程度を想定

音楽系の上演（吹奏楽、オーケストラなど）

大型の舞台芸術

（人形劇、演劇、ミュージカル、オペラ、バレエ、ダンスなど）

伝統芸能（歌舞伎、日本舞踊、寄席など ※人形浄瑠璃は黒田や今田の舞台上演を基本）

会議や大会、講習会などの集会利用も対応

・サブホール：

300～500席程度を想定 ※規模は要検討

肉声を生かした舞台芸術

市民団体の発表

（人形劇、演劇、合唱、ピアノ、楽器など）

人形劇事業（定期公演や特別公演）

この文化会館にも対応
に大型芸術イベントなど
にオペラ、ミュージカル、ダンス、人形劇、演劇、祭など
にオペラ、ミュージカル、ダンス、人形劇、演劇、祭など

◆2 創造支援機能

・スタジオ（創造支援諸室）：

ホール（メイン、サブ）の舞台の広さを持ったリハーサル室

※リハーサル室は、人形劇や演劇など小規模の発表にも使用

日常的な練習利用を想定した諸室（スタジオ、練習室など）

創造活動支援の作業室、工作室、工房（ファボラボ）

◆3 交流促進機能

・多目的なオープンスペース：

市民が気楽に立ち寄れる広めのロビー、エントランス、広場、

情報コーナー、賑わいを創出するスペース、ミニギャラリー

※3つの交流に対応する：鑑賞、創造活動、日常

◆4 管理運営機能

・施設管理のための事務室：

事務室や機械室など施設管理に必要な諸室

1【鑑賞機能】

メインホール (+楽屋)

サブホール (+楽屋)

2【創造支援機能】

リハーサル室
(ホールの舞台と同サイズ)
スタジオ、練習室
作業室、工作室

半屋外
・広場

3【交流促進機能】

多目的なオープンスペース、
ロビー、エントランス、
情報コーナー、ミニギャラリー

半屋外
・広場

4【管理運営機能】

事務室
機械室 等